

複式第5・6学年 国語科学習指導案

5年4名 6年5名 計9名
指導者 宮崎 利恵

- 1 単元・教材 説明の仕方の工夫をみつけ、自分の考えをまとめよう
(教材「天気を予想する」「グラフや表を用いて書こう」光村図書5年)
筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう
(教材『鳥獣戯画』を読む)「この絵、私はこう見る」光村図書6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

これまでに子供たちは、第4学年「アップとルーズで伝える」、「ウナギのなぞを追って」の学習において、写真、図表、地図などに対応させながら、段落同士のつながりに気を付けて読むことを学んできた。また、第5学年「生き物は円柱形」の学習において、文章の「初め」と「終わり」に筆者の考えが述べられていることや、文章構成による効果的な例示の在り方、繰り返し用いられている言葉に着目することによって要旨を捉えることを学んできた。

そこで、本単元においては、図表やグラフなどの資料を文章と対応させて「事実」と「考え」を読み分け、各資料を用いた筆者の意図を考えさせることで、筆者の主張とその説明の効果と工夫を捉えさせたい。さらに、図表やグラフを用いた自分なりの意見文を書く活動を設定することで、説得力のある説明の効果と工夫を振り返らせたい。

この学習は、説明の仕方、表現に着目して読む第6学年教材『鳥獣戯画』を読むの学習へと発展していく。また、図表やグラフを用いた説明の仕方は、他教科等でも活用が期待できる。

(第6学年)

これまでに子供たちは、第5学年「天気を予想する」の学習において、筆者の主張と図表やグラフを用いた説明の効果と工夫を捉え、より説得力のある説明の仕方を学んできた。また、第6学年「時計の時間と心の時間」で、自分の知識や経験と関係付けて筆者の意図を捉え、考えを広げたり深めたりする学習に取り組んできた。

そこで、本単元においては、文章と絵を結び付けて文章を読み、「着目部分(絵)」、「絵から筆者が読み取ったこと(事実)」、「事実から筆者が感じたこと(考え)」の観点で筆者のものの見方を捉えさせながら、自分のものの見方を広げたり深めたりさせたい。また、名画の魅力を紹介する文を書く活動を設定することで、筆者のものの見方を捉え、自分のものの見方を広げたり深めたりすることについて振り返らせたい。

この学習は、文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読む学習へと発展していく。また、観点に基づいて情報を読み取り、感じたことを表現することは、図画工作科や音楽科の作品鑑賞の学習とも関連があり、芸術作品に親しみ、豊かな感受性を育むことにつながっていく。

(2) 指導の基本的な立場

(第5学年)

教材「天気を予想する」は、天気予報の的中率が近年高くなった理由と100%的中させることの難しさを図表やグラフなどを使って述べた説明文である。筆者の主張とその説明の効果と工夫を捉えさせ、説得力のある説明の仕方のよさを読み取らせるのに適した教材である。

「構造と内容の把握」では、「事実」の部分と「考え」の部分を読み分けさせることで、三つの問いを捉えさせ、文章全体の構成を把握させる。また、3回繰り返されている問いと答えが順接的につながり、徐々に論の道筋を筆者の考えに近づけていくという構成の意図にも気付かせる。

「精査・解釈」では、文章に書かれていることと対応させながら、図表やグラフ、写真といった資料を用いた意図やその効果について考えさせる。

「考えの形成」では、自分が納得する筆者の説明の仕方の工夫についてまとめさせ、前時で

(第6学年)

教材『鳥獣戯画』を読むは、アニメーション映画監督である筆者が、アニメーションのルーツともいわれる絵巻物や『鳥獣戯画』のすばらしいと感じた点について論説した説明文である。筆者のものの見方とその対象が明確で、読み手を納得させる文章構成や豊かな表現力を捉えさせ、自分のものの見方を広げるのに適した教材である。

「構造と内容の把握」では、題名から、この教材文が図画工作科の鑑賞会のように、絵を評価し、その魅力を伝える説明文であることを読み取らせ、文章全体の構成を把握させる。

「精査・解釈」では、「着目部分(挿絵)」、「絵から筆者が読み取ったこと(事実)」、「事実から筆者が感じたこと(考え)」の観点で筆者のものの見方を理解させ、「事実から筆者が感じたこと(考え)」の言葉等に着目して表現の工夫を捉えさせる。また、読者をより納得させるための筆者の様々な表現や構成の工夫を捉えさせる。

「考えの形成」では、筆者の主張を読み取り、

学んだことをより自覚化させる。そして、「奄美市はくらしやすい方向に向かっているかどうか」について意見文を書く活動において、図表やグラフを用いた「事実」とその事実を基にした「考え」で説明を構成させることで、自分の主張により説得力をもたせることができるようにする。

「共有」では、意見文の発表会を行い、図表やグラフなどの資料や文章構成の効果について感想や意見を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりさせたい。

主張に対する自分の考えをまとめさせる。また、筆者のものの見方や表現の工夫を参考にして、友達と『鳥獣戯画』の魅力を伝え合い、自分のものの見方や表現の仕方についてまとめさせる。そして、「自分が感じた名画の魅力」を紹介する文を書く活動において、「着目部分（挿絵）」、「絵から筆者が読み取ったこと（事実）」、「事実から筆者が感じたこと（考え）」の観点で、自分が感じたことが伝わるように書き表し方を工夫させる。

「共有」では、名画の魅力紹介を行い、一人一人のものの見方や表現の仕方について感想や意見を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりさせたい。

(3) 子供の実態

国語科の学び方、学習内容、複式学習に関する調査結果は以下のとおりである。（実施日 R1.7.17）

調査項目		第5学年（4名）			第6学年（5名）		
学び方	① 国語科の学習が好きか？（理由も）	好き1	普通3	嫌い0	好き1	普通3	嫌い1
	② 話合いが好きか？（理由も）	好き3	普通1	嫌い0	好き4	普通1	嫌い0
	③ 考えを説明するのが好きか？（理由も）	好き3	普通1	嫌い0	好き3	普通1	嫌い1
学習内容	④ 段落同士の関係を捉えること	できる2	できない2		できる2	できない3	
	⑤ 事実と考えを区別すること	全問正解2	1間間違い1 2間間違い1		全問正解1	1間間違い4	
	⑥ 資料と文章を対応させること（5年）	全問正解4	間違い0				
	⑦ 絵を見て魅力を伝えること（6年）				◎+◎3	◎のみ2	
複式	⑧ ガイド学習が好きか？（理由も）	好き3	普通0	嫌い1	好き3	普通2	嫌い0
	⑨ 5(6)年生との交流が好きか？（理由も）	好き4	普通0	嫌い0	好き5	普通0	嫌い0

5年生の全体的な傾向は以下のとおりである。

《学び方》

①より、国語科の学習に対して、あまり肯定的な印象をもっていないことが分かる。その理由として、「物語文は話の内容がまだおもしろいけど、説明文はつまらない。」「国語は難しい。」といった意見があった。

②より、話合いによって課題解決を図ることに肯定的なイメージをもっていることが分かる。その一方で、「友達の考えの意味や理由が分からないときにどうしてよいか分からない。」などの意見もあった。

③より、考えを説明する活動に肯定的なイメージをもっていることが分かる。

そこで、「何を学ぶか」学習の目的を明確にもたせるとともに、子供の実態に合った言語活動を設定したい。また、振り返りの時間を設定することで、学んだこと（概念や見方・考え方も含む）を自覚化させたい。また、話合いの際には、自分の考えを明確にもたせたい。

《学習内容》

④より、段落同士の関係を捉えることを苦手としている子供が多いことが分かる。

⑤より、「～していたようだ。」と、「～が原因だと思う。」を事実と誤認している子供がいることが分かる。

⑥より、資料と文章とを対応させることがよくできていることが分かる。

そこで、文章全体の構成を捉える際には、段落相互の関係に着目させるようにしたい。また、問いと答えを基に、「事実」と「考え」を読み分ける活動を設定したい。さらに、図表やグラフ、写真といった資料それぞれの効果にも気付かせたい。

6年生の全体的な傾向は以下のとおりである。

《学び方》

①より、国語科の学習に対して、肯定的な印象をもっていないことが分かる。その理由として、「ただ読んだり書いたりするのがおもしろくない。」「活動が少ない。」といった意見があった。

②より、話合いによって課題解決を図ることに肯定的なイメージをもっていることが分かる。その一方で、「友達の考えが理解できないとき」「理由が言えないとき」に困るという意見もあった。

③より、考えを説明する活動に肯定的なイメージをもっていることが分かる。その一方で、「自分の考えに自信がない。」という意見もあった。

そこで、「何を学ぶか」学習の目的を明確にもたせるとともに、子供の実態に合った言語活動を設定したい。また、振り返りの時間を設定することで、学んだこと（概念や見方・考え方も含む）を自覚化させたい。さらに、話合いの際には、自分の考えに自信をもって臨ませたい。

《学習内容》

④より、筆者の主張を捉えることを苦手としている子供が多いことが分かる。

⑤より、「～していたようだ。」を事実と誤認している子供が多いことが分かる。

⑦より、絵から読み取ったことに対して、感じたことを書けていない子供がいることが分かる。また、感じたことと表現が、「いい」「すごい」「きれい」といった限られた言葉に偏っていることが分かる。

そこで、主張を捉える際には、「事実」と「考え」などとの関係をしっかりと押さえながら文章全体の構成を捉えさせるようにしたい。また、文末表現の違いに着目させながら、「事実」と「考え」を読み分ける活動を設定したい。さらに、「心情を表す言葉」の語彙表を用意することで、語彙が豊かになるようにしたい。

《複式学習について》

⑧より、ガイド学習に対して肯定的なイメージをもっていることが分かる。その一方で、「ガイドの指示が分かりにくいことがある。」「全員の意見が違ったときにうまくまとめられない。」「言い合いになったときや考えが分かれたときに困る。」といった意見もあった。

⑨より、異学年の交流に対して肯定的なイメージをもっていることが分かる。その一方で、「6年生が発表していることが分からないことがある。」といった意見もあった。

そこで、話し合いの話し型を活用することで、話し合いがスムーズに進むようにさせたい。また、異学年交流の際には、学習内容をそろえたり、相手意識をもって交流させたりするようにしたい。

(4) 指導上の留意点

【視点1】について

- | | |
|---|---|
| <p>ア 「相手を納得させる説明の仕方には、どのような工夫があるのだろうか」という学習の目的を明確にもたせるために、単元導入で、課題に対する自分の考えと、モデル文を比較させる。また、毎時間、学習計画表を確認させる。(1)ア</p> <p>イ 自分の考えを明確にもって話し合いに臨ませるために、特に、課題のあった段落相互の関係を捉えさせたり、「事実」と「考え」を読み分けさせたりする際にWhich型の課題設定をする。(2)ア</p> <p>ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせるために、短冊黒板やホワイトボードに自分の考えを書かせる。また、それらを視点ごとに分類したり、順番に並べ替えたりさせる。さらに、考えをゆさぶる発問で自分の考えを再考させる。(2)イ</p> <p>エ 話し合いを通して変容した自分の考えを自覚化させ、学習内容の確実な定着を図るために、1単位時間と単元終末には、振り返る時間を設定する。その際、子供の振り返りに対して、「つまり、どういうことかな?」「どのようにして、それが分かったのかな?」といった発問をすることで、概念や見方・考え方についての学びも自覚化できるようにする。(2)ウ</p> | <p>ア 「どのように表現すれば、もっとものごとの魅力を伝えることができるのか」という学習の目的を明確にもたせるために、単元導入で、事前に決めておいた好きな名画の魅力についての自分の考えと、モデル文を比較させる。また、毎時間、学習計画表を確認させる。(1)ア</p> <p>イ 自分の考えを明確にもつとともに、自信をもって話し合いに臨ませるために、特に、課題のあった筆者の主張を捉えさせたり、「事実」と「考え」を読み分けさせたりする際にWhich型の課題設定をする。(2)ア</p> |
|---|---|

【視点2】について

- | | |
|---|---|
| <p>オ 話し合いをスムーズに行わせるために、話し合いの話し型を活用させる。その際、特に、「友達の考えをきくとき」に留意させるようにする。また、それぞれの考えのほかに、話し合いの途中で迷ったことや疑問を書き残したり、自分の考えが変わった要因などを短冊黒板やホワイトボードなどに書き加えたりさせる。(1)ア</p> <p>カ 異学年交流を効果的に行わせるために、両学年の指導事項を「C読むことウ」と「C読むことカ」にそろえる。(2)アイ</p> | <p>オ 自分の考えに自信をもたせるとともに、話し合いをスムーズに行わせるために、話し合いの話し型を活用させる。その際、特に、「友達の考えをきくとき」と「考えが発表しやすくなるように」に留意させるようにする。また、それぞれの考えのほかに、話し合いの途中で迷ったことや疑問を書き残したり、自分の考えが変わった要因などを短冊黒板やホワイトボードなどに書き加えたりさせる。(1)ア</p> |
|---|---|

4 目標 (評価規準)

- | | |
|--|--|
| <p>○ 語と語の関係に気を付けることで、文の意味を捉えやすくなることを理解できるようにする。〈知識・技能〉</p> <p>◎ 伝えたいこと(考え)に合わせた事実を、図表と合わせて用いることで、文章により説得力をもたせることを捉えることができるようにする。
(思考・判断・表現 C読むことウ)</p> <p>○ 筆者の考えや説明の仕方の工夫について考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。〈思考・判断・表現 C読むことカ〉</p> <p>○ 進んで図表やグラフの効果や文章構成などを捉え、文章の内容を読もうとする態度を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)</p> | <p>○ 評価に関する言葉を増やすことができるようにする。〈知識・技能〉</p> <p>○ 筆者が絵のどのようなところに着目して読み取り(事実)、そこから感じたこと(考え)をどのように述べているのかを捉えることができるようにする。〈思考・判断・表現 C読むことウ〉</p> <p>◎ 自分と他者とのものの見方や感じ方の共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。〈思考・判断・表現 C読むことカ〉</p> <p>○ 絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、絵の見方や表現の仕方について学びながら、文章を読もうとする態度を養う。〈主体的に学習に取り組む態度〉</p> |
|--|--|

過程	学習過程・主な学習活動 (第5学年)	学習過程・主な学習活動 (第6学年)	過程
構造と内容の把握③	1 「奄美市はくらしやすい方向に向かっているのかどうか？」を考え、自分なりの考えをまとめる。 ※Which型課題提示 I ・ これまでの社会科学習や日常生活を思い出しながら、「くらしやすい方向に向かっている」「向かっていない」のどちらかを選び、自分なりの考えをまとめる。〈主体的に学習に取り組む態度〉	(前単元)	
	2 単元のめあてを立て、学習の見通しをもつ。 ・ 「奄美市はくらしやすい方向に向かっているのかどうか？」について自分なりの考えを発表し、モデル文と比べることで、単元のめあてを捉える。 単元終末の言語活動 「分かりやすく伝えます。『奄美市はくらしやすい方向に向かっているのか』 意見文で伝えよう。 <単元のめあて> 資料を使って、相手を納得させる説明の仕方には、どのような工夫があるのだろうか。 ・ モデル文から説明の工夫と思われることを見付け、単元のめあてを立てる。 ・ 教材文「天気を予想する」を通して、説明の工夫を学習する見通しをもつ。 〈主体的に学習に取り組む態度〉	(前単元)	
	3 教材文を読み、印象に残った図表やグラフなどの資料について感想を書き、学習計画を立てる。 (1) 教材文を読み、図表やグラフなどの資料の数や種類などについて確認する。 ※Which型課題提示 II (2) 印象に残った資料を選び、その理由と感想を書く。 (3) 学習の順序を考え、学習計画を立てる。 ・ 文章構成 ・ 図表やグラフなどの資料 〈主体的に学習に取り組む態度〉	1 提示した複数の名画から、自分の好きな絵を選び、その魅力を自分なりにまとめる。 ※Which型課題提示 I ・ 示された名画の中から気に入った絵を一つ選び、その魅力や選んだ理由を自分なりにまとめる。 〈主体的に学習に取り組む態度〉	
精査・解釈②	4・5 「事実」と「考え」を読み分け、文章構成を捉える。 (1) 主張が書かれている段落と、三つの問いと答えを捉える。 (2) 三つの問いと答えが順接的につながり、徐々に論の道筋を主張に近づけていく文章構成を捉える。 ・ 三つの答えは、筆者のどのような考えを基にしているか、またその考えに説得力をもたせるために、どのような事実を挙げているか、「事実」と「考え」を読み分け、読み手を納得させるための筆者の説明の工夫を捉える。 ・ 文章構成をまとめる。 【初：問1①②③】－【中：問2④⑤⑥・問3⑦⑧⑨】－【終⑩】 考えに合わせた事実を挙げることで、自分の主張に、より説得力をもたせることができる。 (知識・技能) (思考・判断・表現 C 読むこと ウ)	2 単元のめあてを立て、学習の見通しをもつ。 ・ 前時で選んだ名画について、その魅力を発表し、モデル文と比べることで、単元のめあてを捉える。 単元終末の言語活動 「分かりやすく伝えます。」自分が感じた名画の魅力を紹介しよう。 <単元のめあて> ものごとの魅力を伝えるには、どのように表現すればよいのだろうか。 ・ モデル文から説明の工夫と思われることを見付け、単元のめあてを立てる。 ・ 教材文『鳥獣戯画』を読むを通して、説明の工夫を学習する見通しをもつ。 〈主体的に学習に取り組む態度〉 3 教材文を読み、文章構成を捉え、学習の順序を考えて、学習計画を立てる。 (1) 教材文を読む前と後で『鳥獣戯画』に対する感じ方の変化と要因を考え、文章全体の構成と筆者の主張を捉える。 (2) 学習の順序を考え、学習計画を立てる。 【初①②】－【中③④⑤⑥⑦⑧】－【終⑨】 ・ 絵の見方 ・ 文章構成 ・ 筆者の主張 ・ 文章表現 〈主体的に学習に取り組む態度〉	構造と内容の把握③

<p>精査・解釈①</p>	<p>6 図表やグラフなどの資料を用いた意図やその効果を考える。 ※Which型課題提示III (1) 同じ効果がありそうな資料を2組に分け、それぞれの効果について考える。 (2) 資料の効果について話し合う。 ・文章を裏付ける(説得力をもたせる)効果 ・文章を補う(具体的なイメージをもたせる)効果 (3) 筆者がその資料を用いた意図をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>表やグラフは、数値を用いることで、文章に書かれていることを裏付けし、写真や図は、文章からでは分かりづらいことを補う効果がある。</p> </div> <p style="text-align: center;">〈思考・判断・表現 C読むこと ウ〉</p>	<p>4 絵と文章を照らし合わせながら、筆者の絵の見方を捉え、説明の仕方の工夫を見付ける。 ※Which型課題提示II (1) 絵と文を対応させたり、文と文を区別させたりして「着目部分(絵)」「絵から筆者が読み取ったこと(事実)」「事実から筆者が感じたこと(考え)」の文章カードを選び、筆者の絵の見方を捉える。 (2) 筆者の絵の見方に対して自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>魅力を伝えるためには、着目部分から読み取ったこと(事実)と、そこから感じたこと(考え)をつなげればよい。</p> </div> <p style="text-align: center;">〈思考・判断・表現 C読むこと ウ〉</p>	<p>精査・解釈②</p>
<p>考えの形成①</p>	<p>7 筆者の主張についてまとめ、筆者の説明の仕方の工夫について自分の意見をまとめる。 (1) 筆者の主張を確認する。 (2) これまでの学習を生かし、筆者の考えに納得できた説明の仕方の工夫やその効果について、考えたことを自分なりにまとめる。 〈思考・判断・表現 C読むこと カ〉</p>	<p>5 読者を納得させる文章構成の工夫や筆者の見方を捉える。 (1) 初め：書き出しの工夫 終わり：筆者の主張(尾括型) (2) 中：絵巻物に対する筆者の見方を捉える。 ※Which型課題提示III ・絵巻物の魅力が分かる文章を選び、絵巻物に対する筆者の説明と評価を捉える。 (3) 筆者の絵巻物に対する見方に対する自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・自分の考えを納得させるには、文章構成や表現を工夫(書き出し・呼びかけ・比較・歴史的価値など)すればよい。 ・魅力を伝えるためには、ものごとの全体を見たり、部分に注目したりすればよい。</p> </div> <p style="text-align: center;">〈思考・判断・表現 C読むこと カ〉</p>	<p>考えの形成①</p>
<p>共有①</p>	<p>8 前時に書いた意見文を読み合い、学習で分かったことをまとめる。 (1) お互いの意見文を読み合い、説明の仕方の工夫について話し合う。 (2) 第3時で書いた最初の感想と意見文を比べることで、学習したことを振り返り、次の活動に生かせるようにする。 〈思考・判断・表現 C読むこと カ〉</p>	<p>6 筆者の主張を捉え、筆者の鳥獣戯画の見方に対する自分の考えをまとめる。 ※Which型課題提示IV (1) 「人類の宝」だと筆者が述べる理由となる文の中(9段落目)で説明の仕方が特によいと思った一文を選んで、その理由を書く。 (2) 筆者の見方に対する自分の考えをまとめる。 〈思考・判断・表現 C読むこと カ〉</p>	<p>考えの形成①</p>
<p>考えの形成③</p>	<p>9 「奄美市はくらしやすい方向に向かっているのかどうか?」について、もう一度自分の考えをもち、説得力をもたせるための資料を選ぶ。 (1) 自分の考えをはっきりとさせる。 (2) 説得力をもたせるための資料を選ぶ。 〈思考・判断・表現 C読むこと ウ〉</p>	<p>7 評価の言葉等に着目して、言葉集めをし、短文作りをすることで、表現のよさを捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価の言葉】 ・文末表現 ～しか思えない。～みたいだ。～ではないか。 ～のだろうか。～にちがいない。～だろう。 ～ようだ。 ・言葉 のびのびと見事な、気品、まるで～みたい すばらしい、こんなに～、とびきりすぐれた、 実に生き生きと、自然でのびのびしている、 とびきり～な、なんとすてきで</p> </div> <p style="text-align: center;">〈知識・技能〉</p>	<p>精査・解釈①</p>
<p>共有①</p>	<p>10・11 自分の考えが伝わるように、文章の構成を考え、「天気を予想する」で学習したことを生かして、意見文を書く。 ・「天気を予想する」で学習したことを確認し、自分の考えが伝わるように、工夫して意見文を書く。 〈思考・判断・表現 C読むこと ウ、カ〉</p>	<p>8 筆者の説明の工夫を生かして、自分が感じた『鳥獣戯画』の魅力を紹介する文章を書く。 (1) 『鳥獣戯画』の絵の魅力を紹介する文章を書く。 (2) 書いた文章を読み合い、お互いの文章表現のよさや工夫について話し合う。 〈思考・判断・表現 C読むこと カ〉</p>	<p>考えの形成・共有①</p>

	(次單元)	9 自分の好きな名画を見て、感じた魅力を書き出し、最も伝えたいことを決める。 (1) 絵の着目した部分に印を付け、自分が絵から読み取ったことと、感じたことを書き出す。 (2) 絵の最も伝えたいことを決める。 (思考,判断,表現等 C読むこと ウ,カ)	考えの形成③
	(次單元)	10・11 『鳥獣戯画』を読むで学習したことを生かして、名画の魅力を紹介する文章を書く。 (1) 詳しく書くことや簡単に書くことを決め、文章を構成する。 (2) 『鳥獣戯画』を読むで学習したことを確認し、名画の魅力が伝わるように工夫して紹介文を書く。 (思考,判断,表現等 C読むこと ウ,カ)	
共有①	12 「分かりやすく伝えます。『奄美市はくらしやすい方向に向かっているのか』 意見発表会」をし、意見文について感想や意見を伝え合い、お互いの説明の工夫や表現のよさについて交流する。 (思考・判断・表現 C読むこと カ)	12 「分かりやすく伝えます。自分が感じた名画の魅力紹介」をし、ものの見方や表現の仕方について感想や意見を伝え合い、お互いの見方や表現のよさについて交流する。 (思考・判断・表現 C読むこと カ)	共有①

6 本 時 (第5学年：6 / 12 第6学年：4 / 12)

(1) 目標 (評価規準)

資料 (表・グラフ・図・写真) と事実を結び付けたり、「事実」と「考え」をつなげたりして、資料の効果 (表やグラフは文章を裏付ける、写真や図は文章を補う) を捉えることができるようにする。
(思考・判断・表現 C読むこと ウ)

「着目部分 (挿絵)」、「絵から筆者が読み取ったこと (事実)」、「事実から筆者が感じたこと (考え)」の三つの関係を整理し、魅力の効果的な伝え方 (挿絵、事実、考えの三つをしっかりとつなげる) を捉えることができるようにする。
(思考・判断・表現 C読むこと ウ)

(2) 指導に当たって

「つかむ」では、学習計画表を活用させることで、「資料を使って、相手を納得させる説明の仕方の工夫について学ぶ」という学習の目的を確認することができるようにする。

「つかむ」では、学習計画表を活用させることで、「ものごとの魅力を伝える表現の仕方の工夫について学ぶ」という学習の目的を確認することができるようにする。

「調べる」では、文章に与える効果の種類によって、表・グラフ・図・写真の資料を2組に仲間分けさせること (Which型の課題提示) で、自分の考えを明確にもって、話し合いに臨めるようにする。その際、教材文から必要な部分だけを取り出して考えさせるようにする。また、自分の考えを広げたり深めたりさせるために、「どうして、そう思うのですか?」や「本当にそうですか?」といった考えをゆさぶる発問を行う。さらに、話し合いの話型の「友達の考えをきくとき」に留意させ、互いの考えに対して、質問し合い、互いの考えを共有できるようにする。

「調べる」では、教材文から抜粋した魅力を伝えている文章カードと挿絵を使って、文章カードを正しく並べさせること (Which型の課題提示) で、自分の考えを明確にもって、話し合いに臨めるようにするとともに、「挿絵から筆者が読み取ったこと (事実)」と「事実から筆者が感じたこと (考え)」の二つの視点と、そのつながりに気付くことができるようにする。また、思考を可視化 (文章カードや挿絵に線や印を入れさせたり、理由を書き込ませたりする) させることで、互いの考えを広げたり深めたりできるようにする。さらに、話し合いの話型の「考えが発表しやすくなるように」に留意させ、互いを尊重することができるようにする。

「まとめる・広げる」では、「奄美市はくらしやすい方向に向かっているかどうか」について、自分の考えをより分かりやすいものにするための資料の検討をさせることで、学習内容の定着を図る。また、振り返る時間を設定することで、説得力のある資料の活用の仕方や次時の学習について自覚化させるとともに、今後の学習の見通しをもたせ、学習内容をより深く理解できるようにする。

「まとめる・広げる」では、筆者のものの見方に対して、自分はどう見るのかを考えさせ、自分のものの見方を広げさせるとともに、学習内容の定着を図る。

「分かったこと」に限定して振り返る時間を設定することで、ものごとの魅力を伝えるための説明の工夫について自覚化させるとともに、前学年の学習内容と関連付けることで、学習内容をより深く理解できるようにする。

指導上の留意点	主な活動内容 (第5学年)	遅	位置/時間	遅	主な活動内容 (第6学年)	指導上の留意点
<p>《間接指導》</p> <p>◎ 学習計画表を活用させ、単元のめあてや前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認することで、「何を学ぶか」、学習の目的を明確に捉えることができるようにする。</p> <p>◎ 文章のどこに、どの資料が使われているのか、文章と資料を付き合わせることで、資料の種類や文章と資料のつながりを確認することができるようにする。</p> <p>《直接指導》</p> <p>○ 教材文から必要な部分 (① (表), ② (写真と図), ⑤ (グラフ) 段落) だけを取り出し、Which型の課題提示 (どの資料とどの資料が同じ効果がありそうか) をすることで、自分の考えを明確にもって、資料の効果について気付くことができるようにする。</p> <p>《間接指導》</p> <p>◎ 話し合いをスムーズに進められるように、話し合いの話を活用させる。その際、「友達の考えをきくときに」留意させ、互いの考えを共有できるようにする。</p> <p>◎ 自分の考えを広げたり深めたりできるようにするために、話し合いの中で出てきた考えや意見などは、黒板やホワイトボードに線を引いたり、書き込んだり、思考の跡を確認できるように可視化させておく。</p>	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>図表やグラフ、写真などの資料には、どんな効果があるのだろうか。</p> <p>3 文章構成図と資料を付き合わせる。</p> <p>4 学習の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容 ・ 本時の学習の進め方 <p>5 同じ効果がありそうな資料を2組に分け、それぞれの効果を考える。</p> <p>(Which型の課題提示)</p> <p>① 一人で考える。(ワークシート)</p> <p>② 全体で考える。</p> <p>・ 表があると、的中率が本当にだんだん高くなっていることが分かります。</p> <p>・ 写真があると、実際にどんなものが分かって想像しやすいです。</p> <p>・ グラフがあると、数字が本当だと分かります。</p> <p>・ 図があると、予想図がどんなものが分かっていいです。</p> <p>・ 表とグラフは、本当にそうになっていると示す効果があるんじゃないかな。</p> <p>・ 写真と図は、どんなものが想像できる効果があるんじゃないかな。</p>	つかむ 12分	5分	7分	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>絵の魅力伝えるためには、どのように説明すればよいのだろうか。</p> <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容 ・ 本時の学習の進め方 <p>4 魅力を伝えるために、どのように絵を説明すればよいか考える。</p> <p>教材文から抜粋した複数の文章カードの正しい組み合わせを考える。</p> <p>(Which型の課題提示)</p> <p>① 一人で考える。(ホワイトボード)</p> <p>② 全体で考える。</p> <p>・ 「蛙の口から線が出ている」という文章カードは、「絵に描かれている線」の部分の説明しているから、その絵の下にくだります。</p> <p>・ 「『えい!』とか、『グロロ』とか」の文章カードの「気合いの声」という部分は、「蛙の口から線が出ている」という文章カードの「線が出ている」部分の線を持っていると思います。だから、この二つのカードは、つながっていると思います。</p> <p>・ 絵から分かることが書かれた文章とその文章から思ったことが書かれた文章をつなげれば、並べられるんじゃないかな。</p> <p>5 文章カードを上下に並べた視点について確認し、筆者の魅力の伝え方をまとめる。</p> <p>「着目部分 (挿絵)」、「筆者が読み取ったこと (事実)」、「筆者が感じたこと (考え)」の三つがしっかりとつながっていることが大切なんだ。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>魅力を伝えるためには、着目部分から読み取ったこと (事実) と、そこから感じたこと (考え) をつなげるとよい。</p>	<p>《直接指導》</p> <p>○ 学習計画表を活用させ、単元のめあてや前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認することで、「何を学ぶか」、学習の目的を明確に捉えることができるようにする。</p> <p>○ 例題を出し、視点 (絵と文、文と文をつなげる) をもたせてから、課題に取り組みさせる。またその際、自分たちでも文章カードや絵に理由の可視化ができるように、可視化の仕方を示しておく。</p> <p>○ 教材文から抜粋した魅力が伝わる文章カードとそれを示した挿絵を使って、Which型の課題提示 (文章カードの正しい組み合わせはどれか) をすることで、挿絵と文を対応させたり、文と文を対応させたりしながら、自分の考えを明確にもって話し合いに臨ませる。</p> <p>《間接指導》</p> <p>◎ 自分の考えを広げたり深めたりできるように、文章カードや挿絵に自分の考えの理由が分かるように、線や印を付けさせる。</p> <p>◎ 話し合いをスムーズに進め、自分の考えに自信をもつことができるように、話し合いの話を活用させる。その際、互いを尊重する雰囲気の中で話し合うことができるように、「考えが発表しやすくなるように」留意させる。</p> <p>◎ 自分の考えを広げたり深めたりできるように、話し合いの中で出てきた考えや意見などは、黒板やホワイトボードに線を引いたり、書き込んだり、思考の跡を確認できるように可視化させておく。</p> <p>《直接指導》</p> <p>○ 「事実」と「考え」の書き方の違いに気付かせるために、文末表現の違いが明確に分かる文を選んで提示しておく。</p> <p>○ 子供が説明した言葉から学習のまとめをする。その際、挿絵と挿絵から読み取った文章を比べることで、「筆者が読み取ったこと (事実)」には、筆者が伝えたい絵の魅力伝えるために、筆者の見方を入れていることに気付くことができるようにする。</p> <p>《間接指導》</p> <p>◎ 着目部分からいろいろな見方ができることに気付かせることで、一人一人のものの見方を広げたり深めたりすることができるようにする。</p>
<p>《直接指導》</p> <p>○ 子供が説明した言葉から、学習のまとめをする。</p> <p>○ 「事実」と「考え」とのつながりに気付かせるために、前時に学習した文章構成図を活用する。</p> <p>○ 学習内容の定着を図るために、第1時で考えた「奄美市は暮らしやすい方向に向かっているかどうか」についての自分の考えに説得力をもたせるために有効な資料を検討させる。</p> <p>○ 学習計画表を活用させ、次時の学習が、筆者の考えに納得できた説明の工夫やその効果についてまとめる活動であることを確認することができるようにする。</p> <p>○ 6年生との振り返りの交流を設定することで、今後の学習の見直しをもたせ、学習内容をより深く理解できるようにする。</p> <p>○ 子供の振り返りに対して、「つまり、どういうことかな?」、「どのようにして、それが分かったのかな?」といった発問をすることで、概念や見方・考え方についても、子供が自覚化できるようにする。</p>	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>【表・グラフ】 文章を裏付ける効果</p> <p>【写真・図】 文章を補う効果</p> <p>表やグラフは、数値を用いることで、文章に書かれていることを裏付けし、写真や図は、文章からでは分かりづらいことを補う効果がある。</p> <p>7 筆者がその資料を用いた意図を考え、事実と考えとのつながりについてまとめる。</p> <p>8 次時の学習の見直しをもち、学習を振り返る。</p> <p>9 異学年による振り返りの交流を行う。</p> <p>・ 資料は、ただ使うだけではなく、効果を考えて使う必要があるということが分かりました。</p> <p>・ 自分の意見文を書くときに表やグラフ、写真や図を使うと、伝えたいことがしっかり伝えられそうだなと思いました。</p>	まとめる 7分	7分	7分	<p>まとめ 7分</p> <p>広げる 11分</p> <p>7 筆者のものの見方に対して、自分の考えをまとめる。</p> <p>8 筆者のものの見方についての一人一人の考えを交流する。</p> <p>9 次時の学習の見直しをもち、学習を振り返る。</p> <p>10 異学年による振り返りの交流を行う。</p> <p>・ 自分の考えを伝えるためには、やはり、「事実」と「考え」のつながりが必要だと分かりました。</p> <p>・ 文章だけでなく、絵や資料が加わると、伝えたいことがより伝わるということが、5年生と6年生どちらの学習からも、よく分かりました。</p>	<p>《間接指導》</p> <p>◎ 6年生との振り返りの交流を設定することで、今後の学習の見直しをもたせ、学習内容をより深く理解できるようにする。</p> <p>○ 子供の振り返りに対して、「つまり、どういうことかな?」、「どのようにして、それが分かったのかな?」といった発問をすることで、概念や見方・考え方についても、子供が自覚化できるようにする。</p> <p>《直接指導》</p> <p>○ 学習計画表を活用させ、次時の学習が、魅力を伝えるための他の工夫を見付ける学習であることを確認できるようにする。</p> <p>○ 「分かったこと」に限定して、5年生との振り返りの交流を設定することで、前学年の学習内容と関連付け、学習内容をより深く理解できるようにする。</p> <p>○ 子供の振り返りに対して、「つまり、どういうことかな?」、「どのようにして、それが分かったのかな?」といった発問をすることで、概念や見方・考え方についても、子供が自覚化できるようにする。</p>
		広げる 4分		2分		